

活着・生育順調。今後の生育を確認し、倒伏対策として中干しの徹底を！

1 気象情報

(1) 気象経過

アメダスポイント：広野

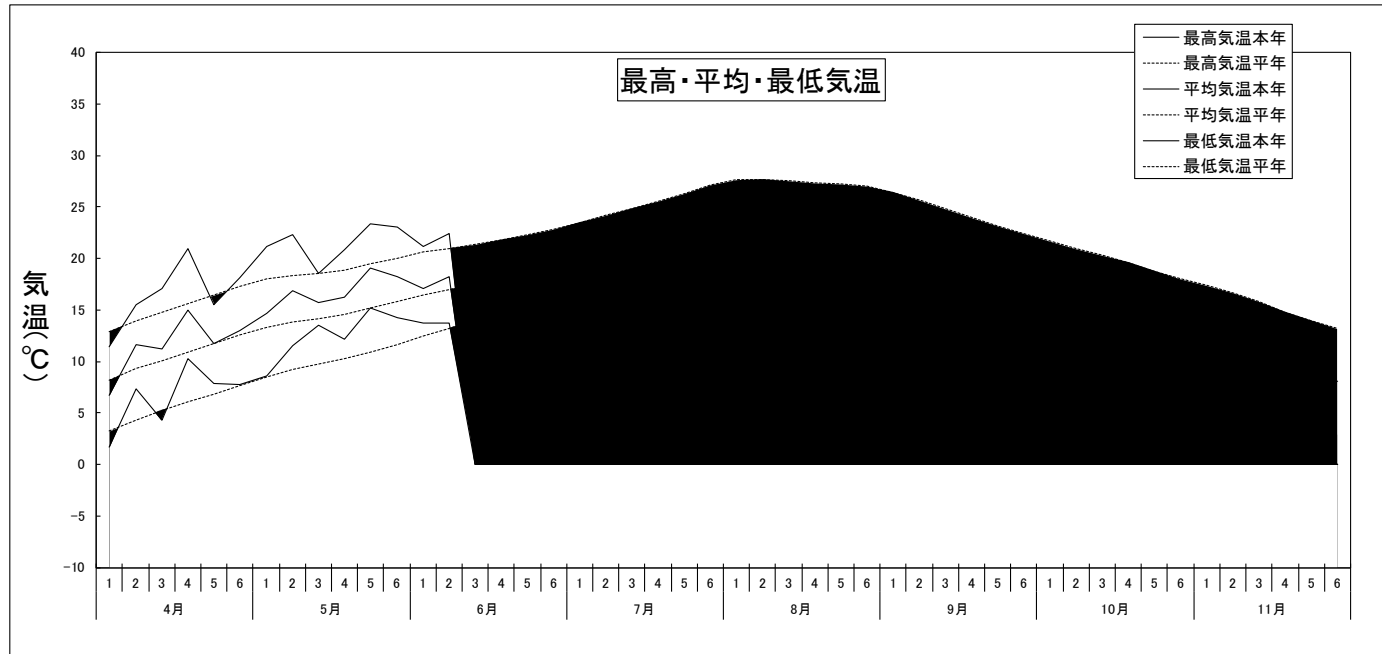


図 1：2017年の気温の推移（～6/10）

(2) 今後の天候の見通し

① 東北地方の1か月予報（平成29年6月15日 仙台管区気象台発表）

1ヶ月予報のポイント	期間の前半は前線の影響を受けにくく、向こう1か月の降水量は平年並か少なく、日照時間は平年並か多い見込みです。向こう1か月の気温は、ほぼ平年並でしょう。
1週目 (6/17～6/23)	高気圧に覆われやすく晴れる日が多いですが、東北南部を中心に気圧の谷や湿った空気の影響で曇る日があるでしょう。
2週目 (6/24～6/30)	東北太平洋側では平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
3～4週目 (7/1～7/14)	前線の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。

② 東北地方の3か月予報（平成29年5月24日 仙台管区気象台発表）

3ヶ月予報のポイント	暖かい空気に覆われやすく、向こう3か月の気温は高いでしょう。向こう3か月の降水量は、ほぼ平年並の見込みです。
7月	前線の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
8月	高気圧に覆われやすく、東北日本海側では晴れの日が多く、東北太平洋側では天気は数日の周期で変わるでしょう。

2 生育状況 生育順調。

表 1：農業総合センター浜地域研究所作況調査（調査日：6/13）

品種名	年次	移植日	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉数	主稈出葉日	
						7葉	8葉
コシヒカリ	本年	5/10	33.6	458	7.1	6/6	-
	平年		32.8	418	7.3	6/7	6/13
	平年比・差		±0日	102%	110%	-0.2	-1日
天のつぶ	本年	5/10	37.2	462	7.0	6/7	-
	平年		35.0	405	7.1	6/8	6/14
	平年比・差		±0日	106%	114%	-0.1	-1日

表 3：双葉農業普及所生育調査（調査日：6/12）

地点	品種名	移植日	草丈 (cm)	茎数 (本/株)	茎数 (本/m ²)	葉数	葉色 (SPAD値)	葉色 (カラスケール)
広野町	コシヒカリ	5/2	34.3	20.9	236	8.4	38.0	3.5
	天のつぶ	5/15	33.2	14.0	254	6.3	37.5	3.5

3 水管理

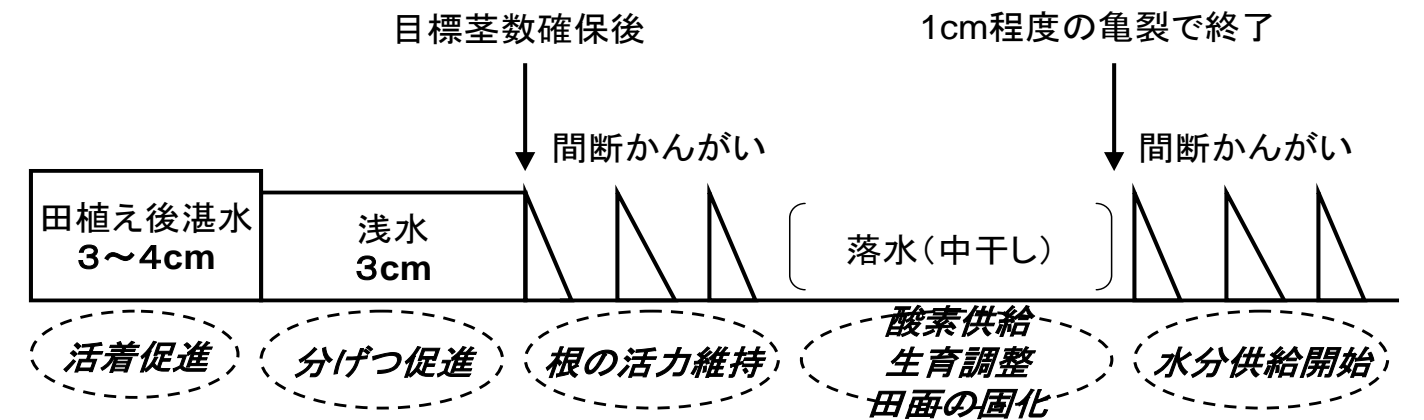


図 2：一般的な水管理イメージ図（5月～7月）

4 田植え1ヶ月後、茎数不足と思われる場合でも……あわてて追肥しないこと！

- 田植え1ヶ月後の茎数の目安：約20本/株
- 肥料不足が原因で分けつが増えないことはめったにありません。根の力が弱っているため、肥料を吸収できないことによるものが多いです。
→ 間断かんがいにより根の活力を高めましょう。
- ただし、極端に葉色が落ちそうな場合のみ、葉色を保つため、窒素成分で1kg/10a追肥。

5 中干しの実施 倒伏対策として、中干しをしましょう！

(参考) 中干しの効果と方法

- 効果は？→
- ① 土壌中へ酸素を供給して、根を健全化する
 - ② 登熟歩合の向上
 - ③ 田面の固化による収穫効率のアップ
 - ④ 耐倒伏性向上による放射性セシウムの付着防止

- 方法は？→
- ① 目標茎数が確保できたら落水する。
中干し終了の目安は、田面に深さ1cmくらいのヒビが入る程度。
このとき、「溝切り」を実施することで効果的に落水できる。
 - ② 中干し終了後は、間断かんがいとして、根に酸素と水を交互に補給する。

中干し開始時の茎数目安

品種	㎡あたり本数	株あたり本数		
		畝間16cm	畝間18cm	畝間20cm
コシヒカリ	430~480	20~23	23~26	25~29
ひとめぼれ	500~530	24~25	27~28	30~32
天のつぶ	450~480	21~23	24~26	27~29

6 葉いもち防除

- 「穂いもち」を出さないための最大のポイントは「葉いもち」を出さないこと・・・対策は？

対策1→ 発生源となる補植用の余り苗は、ただちに水田から除去し、埋没処分する！
(置苗でのいもち病初発は6月10日頃 [県防除所調べの平年値])

対策2→ 田植え時に箱施用剤を使用しなかった場合は、葉いもちの予防剤(オリゼメート粒剤等)を6/20頃を目安に散布する。

対策3→ 箱施用剤を使用した場合でも、葉いもちの発生を確認したら、散布剤で防除する。

7 雑草対策

(※6月16日時点での農薬登録に基づいています。)

表6：中期以降の除草剤(農薬貼付ラベルを参照して適正に使用する — 回数や時期等を絶対遵守！ —)

薬剤名	対象草種	使用時期	使用方法
クインチャー1キロ粒剤	ルイ	(使用量1kg/10a)移植後7日~ルイ4葉期 (使用量1.5kg/10a)移植後25日~ルイ5葉期 (収穫30日前まで)	湛水散布
ヒエクリーン1キロ粒剤	ルイ	移植後15日~ルイ4葉期 (収穫45日前まで)	湛水散布
パサグラン粒剤(ナトリウム塩)	広葉雑草	移植後15~55日 (収穫60日前まで)	落水散布
グラスジンMナトリウム粒剤	広葉雑草	有効分げつ終止期~幼穂形成期前 (収穫60日前まで)	落水散布
ヒエクリーンパサグラン粒剤	ルイ+広葉雑草	移植後15日~ルイ4葉期 (収穫60日前まで)	極浅く湛水して散布
フォローアップ1キロ粒剤	ルイ+広葉雑草	移植後15日(稲4葉期以降)~ルイ5葉期 (収穫60日前まで)	湛水散布
ワイドパワー粒剤	ルイ+広葉雑草	移植後20日~ルイ5葉期 (収穫60日前まで)	落水散布

8 かりの追肥(いもち耐病性強化、登熟向上、倒伏防止など)

品種名	施用時期	施用量
ひとめぼれ	6/25~30頃	ケイ酸カリ10~20kg/10a または 塩化カリ7kg/10a
コシヒカリ	7/5~10頃	

(参考) 施用するかりの種類について

塩化カリ：水に溶けやすく肥効が早い。

ケイ酸カリ：ク溶性カリのため肥効に持続性が有り吸収性も良い。ケイ酸、苦土、ホウ素を含み、湿田での根の活性化、いもち病・ごま葉枯病への耐病性、遅延型冷害に対して効果が期待できる。

9 冷温対策

- 7月上旬の幼穂形成期以降は、稲が低温(17℃以下)に対して特に弱い時期です。
- 低温が予想される場合は、深水管理により幼穂の保護に努めましょう。

- ① 時期の目安
 - ひとめぼれ・天のつぶ：幼穂形成期7月5日頃~、減数分裂期7月15日頃~
 - コシヒカリ：幼穂形成期7月15日頃~、減数分裂期7月25日頃~
- ② 目標水深
 - 幼穂形成期(出穂25日前、幼穂長0.1cm)：5~10cm
 - 減数分裂期(出穂10~15日前、幼穂長8cm)：15cm以上

10 適期・適量の穂肥で食味・収量向上(ひとめぼれ・天のつぶ)

- 基肥一発肥料を使用した場合は、原則として穂肥は必要ありません！
- 幼穂形成期(出穂25日前、幼穂長0.1mm)に生育診断を行い、穂肥の可否を判断します。
- 穂肥の適期は幼穂形成期です。生育診断の結果、穂肥が可能であれば、すぐに追肥しましょう。適期に遅れたり、穂肥の量が多すぎたりすると、玄米タンパク質含量が増加して食味が低下します。
- 生育過剰な場合や、曇天や低温が続く場合は、施肥時期を遅らせるか、施肥を控えます。

表5：幼穂形成期における生育診断の基準と穂肥の目安

品種	穂肥の可否を判断			穂肥が可能な場合はすぐに追肥！	穂肥の量(/10a)
	診断時期	草丈(cm)	カラスケール		
ひとめぼれ	幼穂形成期 (7/5頃~)	60以下	3.5~3.8		NKC6：9~12kg IB4号：10~13kg (N成分1.5~2.0kg)
天のつぶ		—	~4.0		

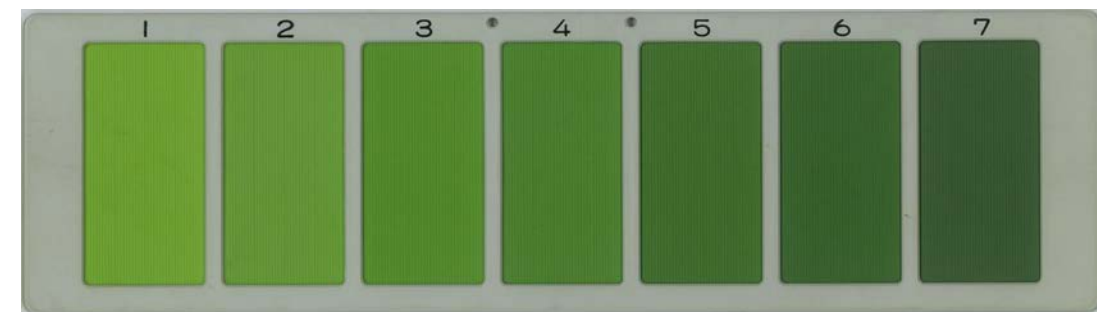


図3 カラスケールの見本

(実物とは色味が異なります。必ず実物のカラスケールを確認してください)

各種営農相談の窓口はこちらへ...

J A福島さくら ふたば地区本部 営農経済部 TEL0240-25-3737 または 広野支店 TEL0240-27-3131